

村のがまだしモン^{No.17}

今回から、数回に分けて、昨年から本村で活動している「※地域おこし協力隊」のメンバーをご紹介します。

※人口減や高齢化が進む地方で、都市部の人材の定住・定着を促し活性化を図る目的で、2009年度に創設。任期は最長3年で、年間の報酬と活動経費は、国から支給される。

神奈川県 川崎市より応募

おがわ やすのぶ 小川 泰伸さん



大分県大分市に生まれ、26歳の時に川崎市で、オートバイ店を開業。生まれ育った九州への移住を考えていた時に、村の空き家バンクで物件を購入。同時期に、隊員募集を知り、応募を決意。

入隊1年目は、南阿蘇鉄道の線路維持の支援業務に従事。2年目となる今年は、村民に使い勝手の良い公共交通網の在り方を研究。既存の手段にこだわらず、規制緩和されつつある

ライドシェア（個人型の相乗り）等、高齢者や観光客の利便性向上を目指しておられました。

運転免許を返上しても、安心して生活できる村の公共交通システム構築に期待大です。また、任期後の独立に向けて、自宅での民泊や自転車を活用した観光ルート整備等の構想もお持ちでした。

話を伺いながら、自らの経験・知識を活かして、村を盛り上げたいという情熱が伝わりました。

小川さんのような人材を村が受け入れ、活躍できる場を作れるかが、今後、村の活性化を左右すると強く感じました。（取材者／太田吉浩委員）

愛知県より応募

ながや きよみ 長屋 清美さん

元々は球磨郡相良村ご出身の長屋さん。愛知県にお住いだったところ、ご主人の高森町勤務に伴い、協力隊に応募。前職は「京都大学 霊長類研究所」に4年半勤務され、研究データの記録、パソコン入力等の専門技術を取得されました。

現在は、村の教育委員会に所属され、村立小学校の「放課後子ども教室」の運営を支援。これまで統一されてなかった運営マニュアルを作成。子ども達にも分かりやすくルールを紙芝居形式で伝える等、ご自身の子育て経験を活かした工夫で、子ども達にも好評のようです。

今後は、授業内容の充実が目標で、現在、外部講師の選定・交渉に取り組んでいるとのこと。現時点では、プログラミングや文化系の外部講師を検討されています。子ども達の可能性を引き出し、村の文化祭等で発表できるような演目や作品になることを期待しています。



（取材者／太田吉浩委員）

編集後記

今年は記録に残るほど梅雨入りが遅かったのも、水不足の心配が絶えなかったのではないのでしょうか。

リニューアルした誌面は、フルカラーで分かりやすく手に取っていただけるよう努力しています。

これからまだ暑い夏が続きます。台風の季節でもあり、最近では激甚化する災害が多く発生しています。普段から備えが必要です。どうぞ、お体には十分お気を付けください。
今村 竜喜

議会広報特別委員会

委員長 丸野健一郎
副委員長 太田 吉浩
委員 笠野 真喜
// 今村 竜喜
// 栃原 辰郎
// 今村 輝宏

発行責任者

議長 荒牧 俊一